資料3

帰宅困難者等対策の課題と主な対応策について（素案）

状況

＊交通機関が停止している状況を想定

近距離徒歩帰宅者

直後の一斉帰宅

遠距離徒歩帰宅者）

一部

帰宅困難者

（帰宅断念者）

延焼地域への進入

障害物散乱道路や落下物危険地の通行

路上の混雑度増大

集団転倒

歩行速度の低下（徒歩帰宅の長時間化）

歩行者による車道の占有

宿泊等の支援を要する徒歩帰宅者の増加

停止した電車の乗客が駅に滞留

ターミナル駅等での人の集中

帰宅断念者の大量発生

都心部での救援事象等発生

課題

一斉帰宅に伴う課題

消火・救助活動への支障

死傷者の発生

体調不良者の発生

緊急輸送への支障

避難所等への集中による混乱

混乱発生

都心での大量の滞留者発生

滞在期間の長期化

救援活動者の不足

主な対応策

1 一斉徒歩帰宅者発生の抑制
- ①「むやみに移動を開始しない」という基本原則の周知・徹底
- ② 発災時における帰宅困難者等への必要な情報の提供
- ③ 企業における従業員等の収容対策
- ④ 学校における生徒等の収容対策

2 安否確認システムの活用

3 徒歩帰宅支援等
- ① 水やトイレ等の提供
- ② 一時休憩施設の提供
- ③避難所における徒歩帰宅者への対応の明確化
- ④ 救急・救護体制の検討
- ⑤ 混雑箇所での混乱の回避
- ⑥ 徒歩帰宅者が必要とする情報の提供

5 駅等での混乱防止・円滑な誘導
- ① 行政及び関係事業者の連携体制の構築
- ② 駅等への集中の防止

4 都心部等における滞留者への支援

7 企業・学校等における、外部からの帰宅困難者等への対応

6 帰宅困難者の搬送
- ① バスや舟運による搬送の検討
- ② バス輸送との連携も含めた鉄道の折り返し運転の検討

8 帰宅困難者の救援活動等への参加促進

9 その他
- ①住宅・建築物の耐震化、火災対策等の推進
- ②帰宅困難者等心得を作成するなど発災時等における望ましい行動モデルの提示
- ③新たな情報提供手段の開発